

理事長のある1日

- 9:00 出勤
- 10:00 会議
- 12:00 昼食
- 13:30 打ち合わせ
- 15:00 メールや書類の
チェック
- 16:00 市内団体との懇親会
- 17:30 退勤



#お仕事
ファイル

財団のお仕事をご紹介します！

理事長
村松真貴子
File 13

「笑顔の花を咲かせたい！」

八王子市学園都市文化ふれあい財団の理事長の仕事には、財団全体の運営、職員の人材育成、外部との調整や懇親を深めることなどがあります。財団が運営する施設や事業は、全て市民の皆様との関わりを持っています。そのため、市民の皆様にも愛される財団を目指しています。また、財団の職員が居心地良く働けるよう、自分自身も笑顔でいることを心がけ、市民の方や職員、関わるすべての人とのつながりを大事にしています。

やりがいを感じる瞬間は？

市民の皆様喜んでいただけたときですね。イベントに満足して帰られる姿、学生たちが八王子に興味を持ってくれる姿、芸術を鑑賞し感動される姿、市民センターに集い楽しそうな姿などを拝見するのが今の私の生きがいです。また、職員がやりがいを持って働いてくれているのを感じる

インタビューしました！

と大変嬉しいですね。改修工事中のいちょうホールが来年春頃にパワーアップをして開館します。ホールは観にいくだけでなく自分自身が舞台上立つことで新たな自分に出会える、そんな夢を育む場でもあると思います。より多くの方に楽しんでいただけることを願っています。



常務理事とともに、毎日笑顔の種を蒔いています！

voice 財団主催公演の来場者アンケートから、感想をご紹介します

2/4(日) 南大沢文化会館 主ホール
藤原道山×SINSKEコンサート

「東方見聞録」～尺八とマリンパによる世界最小オーケストラ～
・素晴らしい演奏会でした。お2人の演奏を生で聴くことができ、本当に良かった！！です。感動しました。音が身に沁みて、途中で胸がふれて涙が出ました。最後は笑顔で終わりました。ありがとうございました。

2/18(日) J:COMホール八王子
八神純子Liveキミの街へ～for all living things～

- ・年齢を感じさせないすばらしい歌声だった…大変幸せな時間でした。元気をもらいました。明日から頑張れる！
- ・若い頃と変わらない美声に感動です！相当な努力をされているんだろうと思います。“みずいろの雨”なつかしさを涙が出そうでした。

「香りの残る艶やかな余韻」——
フランスの香水職人の言葉です。
フランス音楽について連載をもたせていただくという幸せな機会に恵まれたとき、ふとこの味わいある「ユッパンス」が湧きました。香りから、色から、音から思い出す、なにかとても大切なもの、個々のなかで起る「感覚の出会い」は形に取まりようのないもので、それは誰もがもつ豊かさだと思っています。

連載 フランス音楽を纏う



ふかがいりさこ
深貝理紗子

八王子市出身。ピアニスト。エコール・ノルマル音楽院を経てスコラ・カントルム音楽院首席修了。東京文化会館主催公演など出演多数。柴田南雄音楽評論賞受賞。近現代音楽、フランス芸術サロン文化を中心に活動を展開中。

Vol.1 フランス音楽と私

私は4年ほどパリに住みました。多人数の交錯する北部の下町で、口中賑やかで激しくて…随分と鍛えられました。ピッコリの連続を、どこか面白がる。そうするうちに、同じ日常なのに、何を大きく感じるようになりまし。ひと時ひと時、音、音、ひと言ひと言に、いかに感動することが出来るか——そこに人生の彩りや、その人の歩んできた軌行が表れるように思います。人として、他者であったり歴史であったり、温度を感じる大切さを学びました。

世界でこれほどベルに埋め尽くされた地はないのではと思える日本ですが、八王子には自然があります。木洩れ陽には「ピッコシ」が、風と鳥の声には「メシアン」が、夜の鋭い星には「ラヴェル」が、よく似合う。自然や鋭敏な心模様を描くフランス音楽は、どこか和歌の風情とも似ています。次回はず「ドビュッシーと文学」を軸に、響き合う五感の愉しみを綴りたいと思います。

音楽も香水のように纏いたい。こんな素敵なサティの言葉もあります。「生活は、音楽と関係のないときに音楽を必要とする。家具の音楽は名をもたない。」

聴かれることよりも、人々を心地よくする家具のように在ること。皆さん、今日は「ジュノペティ」をかけておやすみなさい。

かわせ はすい
川瀬巴水 旅と郷愁の風景

八王子市
夢美術館
EXHIBITION

大正から昭和期にかけて活躍した木版画家・川瀬巴水(1883～1957 [明治16～昭和32]年)。巴水は日本の原風景を求めて全国を旅し、庶民の生活が息づく四季折々の風景を描きました。本展では、初期から晩年までの代表的な作品とともに、まとめて観る機会の少ない連作(シリーズ)も含め約150点を展示します。

～6月2日(日)

- 10:00～19:00(ただし、入館は18:30まで)
- ※月曜休館(月曜が休日の場合は開館し、翌平日が休館)
- 【料金】一般 900円 学生・65歳以上450円
- ※中学生以下無料
- ※ラ・ラ・ラ友の会会員は2割引



川瀬巴水《月島の渡舟場》東京十二ヶ月
1921(大正10)年10月 渡邊木版美術画館蔵

アップルコンピューターの共同創業者スティーブ・ジョブズは、日本の新映画の愛好家として知られ、中でも川瀬巴水は特にお気に入りの作家でした。本展覧会では、ジョブズがコレクションしていたものと同じ作品について取り上げ、現代に息づく巴水の魅力をご紹介します。



川瀬巴水《西伊豆木負》1937(昭和12)年6月 渡邊木版美術画館蔵



修復後



修復前

大野五郎 《俊介君》
キャンバスに油彩 1945年

今回は絵画作品の修復について紹介します。

連載
夢美術館
収蔵品の
おはなし

八王子市夢美術館
の収蔵作品を
ご紹介します。